

日本在宅医学会 第20回記念大会 一般演題 ポスター発表一覧

* 演題名にHTMLタグが含まれている場合がありますが、抄録集では正しく変換されます

* 事情により発表順が変更となる場合がございますので、必ずセッション開始前に会場に待機し、座長の指示に従い発表してください。

ポスターセッション1

4月29日(日) 13:40~14:40

3F 展示会場(北辰)

グループ	発表ID	発表順	姓	名	演題登録ID	演題名
1	P1-01	1	福田	俊一	210017	終末期癌患者に対する苦痛緩和目的で導入した携帯型ディスプレイ注入ポンプ(PCA型)の有用性の検討
1	P1-02	2	吉澤	明孝	210322	在宅緩和ケアにおけるヒドロモルフォンへの期待
1	P1-03	3	篠田	裕美	210245	認知症のある家族とのがん看取り～緩和ケアサポートパスでみえた家族ケアへの視点～
1	P1-04	4	佐伯	修二	210179	当クリニックのがん終末期における在宅緩和医療の検討
1	P1-05	5	松村	さかえ	210303	侵襲的人工呼吸器を装着しないと決定されていたALS終末期患者への意思決定支援～重篤な気管支炎発症の中で～
1	P1-06	6	豊蔵	真理	210233	在宅で非がん高齢者を看取った家族への訪問看護の関わり-家族がたどる心理のプロセス
1	P1-07	7	引野	雅子	210083	神経疾患の終末期ケア・鎮静にどう向き合うか～鎮静して自宅で最期を迎えた多系統萎縮症の一例を振り返って～
2	P1-08	1	山口	優美	210177	在宅療養からホスピスへ入院するタイミングの重要性
2	P1-09	2	中村	奈保子	210262	複雑な患者背景をもつ、終末期の若年子宮頸癌患者の退院希望を医療・介護・行政との連携で叶えた一事例
2	P1-10	3	川淵	奈三栄	210221	癌末期で余命宣告時期を過ぎて生じてくる患者・家族の気持ちの変化・辛さについての検討
2	P1-11	4	竹下	みちよ	210037	終末期における症状緩和が残された家族に与える影響～訪問看護師の関りで大きく変わる家族の未来～
2	P1-12	5	荒井	康之	210059	在宅緩和ケアを受けたがん患者の療養場所の希望と実際～在宅医療は、患者・家族の期待に応えられたか～
2	P1-13	6	白木	良治	210122	在宅療養支援診療所における終末期摂取量および緩和医療の実際
2	P1-14	7	加藤	聡之	210073	在宅医療における麻薬使用に関する地域包括的協働連携からの課題点の抽出と検討
3	P1-15	1	レシャード	カレッド	210008	居住系施設における看取りの現状と課題
3	P1-16	2	田中	誠	210026	小規模な介護施設での看取りを進める活動
3	P1-17	3	西村	嘉裕	210031	施設における「良いな！」と思う看取り
3	P1-18	4	田平	絵里	210138	グループホームにおける看取りの現状と看護師への課題
3	P1-19	5	小倉	和也	210341	「施設でできる在宅医療と看取り」を用いた研修が介護職員の心理に与える影響
3	P1-20	6	今村	高暢	210253	施設における見取り支援への実践取り組みから見えてきたもの
3	P1-21	7	平	洋	210131	居住系施設訪問診療患者の死亡終了事例の検討
4	P1-22	1	伊賀	勝康	210030	スピリチュアルベインから振り返り、筋萎縮性側索硬化症への緩和ケアの困難さを検討した在宅看取りの一例
4	P1-23	2	石賀	丈士	210088	年間300名以上の在宅看取りを担える診療所の作り方
4	P1-24	3	荒木	由紀子	210112	「在宅看取り」に対する意識調査
4	P1-25	4	大谷	悠祐	210156	当院における在宅看取りの実態調査
4	P1-26	5	土井	正樹	210302	「リビングで家族と今まで通りに過ごしたい」というご本人の想いに寄り添って～希望に添った生活環境の継続のために～
4	P1-27	6	中島	徳志	210326	看取りまで関わりたいのに関われないヘルパーの苦悩～アンケート調査を通して見えてくる現場における矛盾～
4	P1-28	7	横田	佳苗	210339	静岡県清水区における在宅看取り数調査から見えた現状と課題
5	P1-29	1	引野	雅子	210098	在宅非がん患者の症状緩和にも有用なPCAポンプ～特発性肺線維症の一例から～
5	P1-30	2	門間	文彦	210268	在宅看取りに至らなかった症例の検討
5	P1-31	3	柳澤	大地	210195	「癌末期患者と家族の在宅生活における不安感への支援について～地域医療連携にできる事は何か～」
5	P1-32	4	内原	俊記	210174	「おだやかな看取りを明日に活かすみち」新渡戸記念中野総合病院の在宅剖検の実践からみえてくる地域包括医療の新たなカタチ
5	P1-33	5	和泉	典子	210329	地域の介護職や居住系施設職員を主な対象とした緩和ケア研修会「緩和ケアを学ぼう会」の評価
5	P1-34	6	田中	裕子	210151	「当院の在宅医療が自宅看取り後の家族に及ぼす影響」
5	P1-35	7	小松	裕和	210192	主介護者が感じる介護協力者数が多いほど主介護者の介護負担感は少ない
6	P1-36	1	伊東	紀揮	210274	重症心不全患者へのカテコラミン持続点滴の在宅管理の実際-多職種心不全クリニックの看護師の経験から-
6	P1-37	2	白川	光雄	210280	デュラグルテドにより体重減少及び良好な血糖コントロールを得られた肥満合併高齢者慢性心不全の在宅症例
6	P1-38	3	石川	昌弘	210132	在宅医療における、携帯型超音波診断装置を用いての心臓機能及び心不全スクリーニングの検討
6	P1-39	4	佐久間	詠理	210265	多職種で連携しドパミン注と利尿剤の持続投与を安定して施行し得た一例
6	P1-40	5	菊池	知子	210136	強心薬依存状態である末期心不全患者の退院支援
6	P1-41	6	高木	暢	210317	カテコラミン依存の末期心不全患者が希望する在宅療養を多職種アプローチによって実現できた一例
6	P1-42	7	山本	直史	210271	訪問診療における心不全既往患者、末期癌患者、非心不全非末期癌患者における臨床背景及び予後の検討
7	P1-43	1	川本	純	210250	慢性心不全患者における緩和医療介入タイミングの経験～緊急入院後病院死との比較～
7	P1-44	2	井上	ますみ	210078	施設との連携により末期心不全患者の意思決定を尊重し希望に添えた事例
7	P1-45	3	田中	宏和	210153	末期心不全患者における在宅症状緩和ケアの現状-心不全と癌の比較検討-
7	P1-46	4	松原	清二	210343	病院退院後の心不全患者の食思不振についての考察
7	P1-47	5	山本	英世	210251	在宅心不全患者における終末期判断の難しさ(終末期判断が難しいことによる、最後を過ごしたい場所と実際の看取り場所の違い)
7	P1-48	6	神谷	仁孝	210055	在宅医療後の慢性心不全患者遺族から実施した満足度アンケート調査
7	P1-49	7	鈴木	誉也	210248	そよ風(当院)における心不全の在宅医療・看取り例の検討
8	P1-50	1	川崎	博行	210325	「生まれてから退院したことがない」小児心臓疾患患者の在宅移行事例
8	P1-51	2	奥田	寛子	210284	「小児在宅医療の担い手を全国で増やす取り組み～今すぐ役立つ在宅医療未来道場in軽井沢での活動を踏まえて～」
8	P1-52	3	宮田	章子	210247	終末期脳腫瘍の思春期例を通し検討した 在宅での小児科医の看取りの意義について
8	P1-53	4	矢澤	聡	210082	埼玉県における小児在宅医療の病診連携:非小児科医が行う小児在宅医療の臨地的検討
8	P1-54	5	辻川	昭仁	210184	高次医療機関より在宅療養後方支援病院を介し多職種連携にて重度心身障害児を在宅で受け入れた一例

日本在宅医学会 第20回記念大会 一般演題 ポスター発表一覧

* 演題名にHTMLタグが含まれている場合がありますが、抄録集では正しく変換されます

* 事情により発表順が変更となる場合がございますので、必ずセッション開始前に会場に待機し、座長の指示に従い発表してください。

9	P1-55	1	赤崎	真理	210094	新しい在宅支援のカたち ~看護小規模多機能型居宅介護を利用した症例を通して~
9	P1-56	2	福田	裕子	210207	看護小規模多機能型居宅介護事業所で認知症肺癆末期利用者の最期を住み慣れた自宅を支える
9	P1-57	3	福田	光宏	210291	看護小規模多機能型居宅介護事業所で介護職員(介護福祉士やヘルパー)が食事提供を行う意味 ~最期までおいしく楽しく食べる~
9	P1-58	4	石川	真子	210283	看取りから見える地域の課題と看多機の役割
9	P1-59	5	大場	哲也	210217	看護小規模多機能型居宅介護における、看取り支援の在り方について~事例を通して、サービスの特徴を活かした取り組みから考察する~
9	P1-60	6	小澤	敬子	210203	高齢者心不全患者における看護小規模多機能居宅介護事業所の在宅心不全ケアモデル
9	P1-61	7	木工	達也	210159	在宅における看護師特定行為を実際にやってみて~栃木県東部におけるどこでもの一例~
10	P1-62	1	船木	巳加	210198	遺族会がスタッフに与えた影響 ~スタッフもケアされる空間~
10	P1-63	2	細田	亮	210210	遺族訪問から得られた「気づき」と家族の本音
10	P1-64	3	天野	静	210246	在宅看取り後に行った遺族訪問の結果の考察
10	P1-65	4	赤荻	栄一	210307	在宅がん患者看取り後のグリーンケアとして始まったがん患者家族会
10	P1-66	5	堀場	恵子	210160	「漫画でアプローチする在宅療養患者の“ライフレビュー”と“グリーンケア”」
10	P1-67	6	鶴田	栄子	210204	「生きるを支えたいプロジェクト」の取り組み
10	P1-68	7	宮木	大	210296	「もしバナゲーム」を用いたワークショップの自由記述アンケートに関する統計学的検討

ポスターセッション2

4月29日(日) 15:10~16:10

3F 展示会場(北辰)

グループ	発表ID	発表順	姓	名	演題登録ID	演題名
1	P2-01	1	小林	廣岳	210143	ネグレクトケースにおけるソーシャルワーカーの役割
1	P2-02	2	小林	伸一郎	210124	地域から求められるソーシャルワーカーの役割 アンケートから見た評価・課題
1	P2-03	3	辻	典子	210062	介護支援専門員(CM)が通常業務において感じる課題の検証
1	P2-04	4	小倉	和也	210342	ナラティブアプローチによる介護職員へのストレスケアとマネジメント
1	P2-05	5	望月	菜摘	210123	通所型サービスA事業「ひだまり」開設半年後の評価~利用者へのアンケート調査より~
1	P2-06	6	笠	芳紀	210230	多職種連携のなかで訪問介護士が困難に感じていることに関する混合研究
1	P2-07	7	清水	里恵	210171	ケアマネジャーの訪問薬剤管理指導に対する意識調査の考察~薬剤師はケアマネジャーにとって身近な存在になっているか~
2	P2-08	1	南	智子	210056	在宅MSWができること ~いわゆる困難事例と権利擁護~
2	P2-09	2	西出	真悟	210101	在宅医療ソーシャルワーカーが果たす役割~将来を見据えて地域をつなぐ活動~
2	P2-10	3	石丸	友里江	210181	ものがたり情報後見~在宅医療現場の社会福祉士はツナギヒトである~
2	P2-11	4	松重	明	210176	相談支援部門が在宅療養支援診療所の質を高める~在宅療養なんでも相談室におけるMSWの役割りと活動~
2	P2-12	5	村田	英理子	210127	在宅での生活を実現する為、在宅療養支援クリニックのMSWが担う役割
2	P2-13	6	澤口	陽子	210079	在宅診療における多職種協働およびソーシャルワーカーの意義
3	P2-14	1	金井	緑	210048	精神科身体合併症を診る診療所の訪問診療に期待されていること ~ソーシャルワーカーの立場から視る~
3	P2-15	2	佐藤	淑子	210129	在宅クリニックの医療ソーシャルワーカー(以下MSW)が行う心理的援助としてのディグニティセラピー
3	P2-16	3	松下	香織	210141	「飛び出せる力」を持ったソーシャルワーカー~在宅MSWという存在~
3	P2-17	4	松村	さかえ	210216	意思決定支援における在宅医療ソーシャルワーカーの役割 -在宅療養支援診療所の終末期患者を支える支援チームの中で-
3	P2-18	5	戸泉	めぐみ	210199	在宅医療からつながる医療的ケア児・家族とのかかわり
3	P2-19	6	大友	路子	210105	地域包括ケアシステムの中で地域密着型クリニックにおけるソーシャルワーカーが果たす役割
3	P2-20	7	小林	廣岳	210121	在宅医療機関ソーシャルワーカーが集い語り合う場の必要性
4	P2-21	1	二井	俊行	210096	地域における褥瘡予防環境整備に向けて ~訪問リハビリテーション事業所の取り組み~
4	P2-22	2	北野	桂介	210092	在宅呼吸リハビリテーションの普及のために -導入阻害因子の検討-
4	P2-23	3	中田	隆文	210281	在宅ALS患者の在宅呼吸管理と訪問リハビリテーション
4	P2-24	4	山本	理子	210328	「在宅生活を念頭にいた担癌患者」のリハビリテーションのゴール設定に関する振り返り
4	P2-25	5	阿久津	彰良	210119	地域に飛び出すリハビリ専門職の新しい取り組み~介護予防に資する地域リハビリ活動支援~
4	P2-26	6	田島	加織	210318	地域包括ケア病床での退院前訪問の必要性を検討するために必要なこと -理学療法士としてFIM運動項目から考える-
4	P2-27	7	戸田	香	210145	訪問診療患者の地域包括リハビリテーションの現状と課題
5	P2-28	1	清水	里恵	210173	訪問薬剤活動の実績ゼロの薬局が、地域の在宅ケアチームの一員となるまで
5	P2-29	2	数尾	展	210007	多職種連携ICTシステム導入による薬剤師の在宅医療への参画モチベーション向上
5	P2-30	3	齋藤	淳	210003	在宅医療における「かかりつけ薬剤師」の役割
5	P2-31	4	平賀	愛	210144	京都市西京区における在宅支援診療所と訪問薬剤指導対応薬局との連携
5	P2-32	5	大須賀	悠子	210206	診療所薬剤師の役割と意義の追求、質の向上に向けて -在宅療養支援診療所薬剤師連絡会の立ち上げと活動報告-
5	P2-33	6	今城	宏文	210260	在宅療養支援診療所に勤務する薬剤師による薬業連携の現状と課題
6	P2-34	1	吉野	喜代美	210310	広げよう在宅患者のフットケア~地域活動に向けての第一歩~
6	P2-35	2	竹下	みちよ	210039	多職種連携で見えてきたこと ~森のけあかふえでの取り組みを通して~
6	P2-36	3	黒川	洋子	210235	訪問看護ステーションでの男性訪問看護師
6	P2-37	4	村崎	佳代子	210324	家で暮らす楽しみ~心地よい清潔の保持をめざして~
6	P2-38	5	永崎	美奈子	210290	高度医療を必要とする在宅(施設)患者へのアプローチ ~施設へのサポートを行う訪問看護師の役割~

日本在宅医学会 第20回記念大会 一般演題 ポスター発表一覧

* 演題名にHTMLタグが含まれている場合がありますが、抄録集では正しく変換されます

* 事情により発表順が変更となる場合がございますので、必ずセッション開始前に会場に待機し、座長の指示に従い発表してください。

6	P2-39	6	片岡	愛	210164	修学旅行への医師同行に対する肢体不自由特別支援学校教員と看護師の意識
6	P2-40	7	中島	由加	210116	在宅医療への移行過程における看護師の役割
7	P2-41	1	中村	雅子	210113	訪問診療利用者および近隣事業所へのアンケート調査を実施して訪問診療における看護師の役割を考える
7	P2-42	2	高洲	なぎ沙	210118	訪問診療と訪問看護との関わりについて考える
7	P2-43	3	赤名	千恵子	210218	豊田地域医療センター訪問診療同行看護師の教育プログラム
7	P2-44	4	高木	理江	210140	訪問診療同行看護師の役割と意義
7	P2-45	5	武藤	昌子	210057	生活を支え、ものがたりを紡ぐために ～訪問診療同行看護師の役割～
7	P2-46	6	高橋	美保	210308	「ケア・カフェきたかみ」からいのちと生活を支えるまちづくりへ
7	P2-47	7	友成	康二	210327	在宅訪問による服薬支援にてワルファリンカリウムの効果が顕著に現れた例
8	P2-48	1	鈴木	貴子	210081	未治療精神症状が強い患者の症例報告と課題 ～導入から治療まで～
8	P2-49	2	柳楽	知義	210270	訪問診療における、精神科医・訪問看護ステーションとの連携
8	P2-50	3	伊藤	博之	210091	7年間に渡る施設骨折事例の検討
8	P2-51	4	松枝	啓	210228	統合失調症により社会性が欠如し、長年医療介入を拒否している患者のリハビリは可能か？ 多職種連携によるアウトリーチ支援の意義
8	P2-52	5	染野	良子	210236	安心できる在宅移行を行うための支援についての検討 一社会福祉士の立場から
8	P2-53	6	吉野	喜代美	210316	介護協力が得にくい介護者への精神的支援を考える～アルコール依存性精神障害の症例を通して～
9	P2-54	1	橋爪	裕	210066	多職種協働で食支援を実践し良好な結果が得られた一事例
9	P2-55	2	中野	久美子	210089	神経難病があっても口から食べる楽しみで生きる喜びを ～在宅訪問管理栄養士と訪問リハビリ言語聴覚士との連携～
9	P2-56	3	梅木	麻由美	210102	訪問診療専門クリニックにおける訪問栄養指導～在宅患者の食支援を考える～
9	P2-57	4	井村	龍磨	210155	在宅復帰を目指した有床診療所での栄養支援のあり方
9	P2-58	5	國末	充央	210241	多職種連携による在宅栄養管理により経鼻経管栄養から経口摂取可能となった1例
9	P2-59	6	太田	俊輔	210255	ミックス型1馬力診療所でも無理なくできる訪問栄養指導
9	P2-60	7	山田	亜紀子	210266	患者を幸せにする食支援とは何か ～自分らしさを貫いたALS患者から思うこと～

ポスターセッション3

4月30日(月・祝) 9:10～10:10

3F 展示会場(北辰)

グループ	発表ID	発表順	姓	名	演題登録ID	演題名
1	P3-01	1	榊原	雄太	210065	多職種連携における地域連携ネットワークの活用について～地域連携ネットワーク「はち丸ネットワーク」の展開～
1	P3-02	2	柴崎	英明	210042	認知症検診から多職種を結びつける保健指導～多職種連携の新しい形～行田モデルから
1	P3-03	3	宮道	亮輔	210097	基本に忠実にPDCAサイクルを回している多職種連携推進の実践(栃木県小山市の在宅医療・介護連携推進事業)
1	P3-04	4	都築	晃	210165	大学運営による在宅医療介護連携拠点「豊明東郷医療介護サポートセンター かけはし」による退院支援と追跡調査
1	P3-05	5	磯崎	哲男	210186	地域住民の在宅医療に関する意識を醸成する取り組みとその結果
1	P3-06	6	豊福	真由美	210298	宗像市・福津市在宅医療・介護連携推進事業の実践
1	P3-07	7	桐ヶ谷	大淳	210163	宮崎県における在宅医療・介護連携推進事業の現状と課題
2	P3-08	1	加藤	里美	210024	医師会主催市民健康フォーラム・認知症検診(行田モデル)を活かした医療介護連携事業の取り組み
2	P3-09	2	山田	寿美	210147	「京あんしんネット」を利用し多職種連携の強化を目指して
2	P3-10	3	山口	優美	210175	杉並区在宅医療地域ケア会議の取り組みについて
2	P3-11	4	大矢	真広	210183	名古屋市医師会 在宅医療・介護連携支援センターの取組みと現状について
2	P3-12	5	吉永	治彦	210225	在宅医療を支える多職種連携におけるICT活用と情報共有の内容の検討～静岡市清水医師会による調査結果とシステムの課題
2	P3-13	6	五十子	桂祐	210331	町田市医師会における在宅医療介護連携の取り組み
3	P3-14	1	星野	将隆	210045	「ふなばし神経難病サポートネットワーク」における活動についてのアンケート調査からみえてくること
3	P3-15	2	八森	淳	210187	地域診断からみえた、地域包括ケアシステムにおける地域の医療機関に期待される役割
3	P3-16	3	鈴木	重良	210212	「多職種×ネットワーク＝チーム力」で充実を図る豊田市の在宅医療
3	P3-17	4	坂井	理恵	210273	JICA草の根・タイの高齢者プロジェクトに参加して～訪問看護・訪問リハの視点から～
3	P3-18	5	栗原	幸江	210025	認知症初期集中支援チームのアウトリーチ機能を活かした、いわゆる『ごみ屋敷』問題解決への一考察
3	P3-19	6	溝上	俊亮	210027	認知症症状によってケア方法に違いがあるの？ 簡単チェックで早期発見・適切ケア
3	P3-20	7	鹿山	高彦	210032	認知症検診から街に飛び出す訪問薬剤管理指導～多職種連携の新しい形～行田モデルから
4	P3-21	1	高橋	隼人	210004	地域住民と共に考え、共に生きる地域作りへ繋がる多職種連携を目指して
4	P3-22	2	寺門	貴	210043	住民と医療職の協働により体と心が元気になるまちづくり～関係人口を増やし地域活性化につなげる～
4	P3-23	3	松岡	邦彦	210049	「まちづくり、はじめました」～在宅医療支援診療所による古民家の利活用、まちづくりと地域包括ケアの推進を目指すNPO法人設立の経緯について～
4	P3-24	4	砂場	真弓	210194	地域のケアマネージャーが連携を行い、地域の多職種や住民を巻き込み、地域課題解決の仕組みづくりを現場から作り上げる取り組みの報告
4	P3-25	5	中川	征士	210227	行政との協働による制度・分野の縦割りを越えた相談窓口開設・ボランティア活動からモデル事業実施へのプロセス
4	P3-26	6	松下	香織	210068	子供向け料理教室開催への取り組み～地域と共に歩む在宅栄養支援診療所を目指して～
4	P3-27	7	黒崎	史果	210234	地域住民・自治体発行のエンディングノートを活用したACPの取り組み
5	P3-28	1	中元	慶	210044	地域活動への取り組み～在宅リハの観点から～
5	P3-29	2	奥村	圭子	210069	住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための医療専門職の商店街活動報告
5	P3-30	3	岩	有美	210146	一般成人を対象とした家族内の早期DNAR意思決定促進要因の検討

日本在宅医学会 第20回記念大会 一般演題 ポスター発表一覧

* 演題名にHTMLタグが含まれている場合がありますが、抄録集では正しく変換されます

* 事情により発表順が変更となる場合がございますので、必ずセッション開始前に会場に待機し、座長の指示に従い発表してください。

5	P3-31	4	岩野	泰士	210130	行政と共に多職種で開催した市民講座「家で亡くなるということ」から、市民への啓発を考える
5	P3-32	5	吉田	和史	210018	「認知症カフェを運営して」地域での認知度を向上させる取り組みについて
5	P3-33	6	小林	豊	210190	「岡輝みんな食堂」の立ち上げ活動報告
5	P3-34	7	井出	美由紀	210232	みんなでつなげよう うすだ健康館の 輪
6	P3-35	1	五十子	桂祐	210332	町田市における病院救急車を用いた在宅医との病診連携
6	P3-36	2	坂本	雅美	210061	住み慣れた家に帰りたい～急性期病院と共同での多職種連携～
6	P3-37	3	五味	一英	210168	急性期医療と在宅医療をつなぐ 一病診連携カンファレンスを通して～
6	P3-38	4	土屋	邦洋	210185	在宅医が急性期病院の中でどのように協働しその役割を果たしてゆくか
6	P3-39	5	松宮	泉	210312	住み慣れた地域で暮らしていくことを支える医療機関として～訪問診療と急性期病棟及び緩和ケア病棟との連携で成し得た事、今後の課題～
6	P3-40	6	月永	洋介	210244	在宅における『がん治療』の継続 ～病院+在宅医療の連携～
6	P3-41	7	川田	尚吾	210148	術後早期に在宅復帰した超高齢者への多職種による自立支援アプローチの試み
7	P3-42	1	本田	宜久	210337	中小病院が在宅医療と連動して地域医療を担う試み その1 Community Hospital Japanプロジェクト、福岡県飯塚市塚田病院～
7	P3-43	2	松島	和樹	210335	中小病院が在宅医療と連動して地域医療を担う試み その2 Community Hospital Japanプロジェクト、京都市伏見区金井病院～
7	P3-44	3	金城	謙太郎	210336	中小病院が在宅医療と連動して地域医療を担う試み その4 Community Hospital Japanプロジェクト、神奈川県厚木市森の里病院～
7	P3-45	4	上畑	大	210050	在宅医療専門クリニックから連携医療機関への働きかけ～円滑な調整と移行へ繋げる為には何が出来るのか？～
7	P3-46	5	藤井	敬美	210052	退院調整における訪問診療の看護師の役割について考える ～医療依存度の高い2事例から～
7	P3-47	6	幸田	宏美	210067	壊死性筋膜炎により長期入院となった高齢者の退院調整と退院後の生活までの関わり ～ケアハウスから独居住み替えとなった症例～
7	P3-48	7	安中	正和	210285	長崎市の在宅療養移行支援の現状からみる、病院と並診して関わる在宅医療の効果と課題
8	P3-49	1	野々垣	禪	210080	緊急入院からの在宅看取りに向けた継続的支援についての考察
8	P3-50	2	横倉	基	210166	看取り(逆)救急 余命宣告の入院中の患者家族が住み慣れた場所で最期を迎えることを希望し、これを叶える為、病院側が在宅側と連携して早急な退院に繋げる取り組みを行った。
8	P3-51	3	大友	路子	210223	生活者である終末期がん患者の意思決定支援やサポートをふりかえる ～病院スタッフと在宅スタッフの共同ディスカッションで見てきたこと～
8	P3-52	4	鈴木	真紀子	210279	がん終末期患者の意思決定支援への関わり ーがん終末期患者の在宅看取りから学んだことー
8	P3-53	5	河島	夏来	210152	終末期がん患者の在宅退院看護看取りが後押しした要因 ～訪問看護師とはどんな存在かを具体的に伝えることの重要性～
8	P3-54	6	三村	卓司	210267	がん診療拠点病院のない医療圏における緩和医療の提供
8	P3-55	7	入江	貴子	210142	アドバンスケアプランニングの在宅看取りに対する影響
9	P3-56	1	中山	美由紀	210095	「始動した皮膚・排泄ケア認定看護師同行訪問に相談員として取り組んで」
9	P3-57	2	田中	啓太	210321	病棟看護師が訪問同行研修を行なう意義について
9	P3-58	3	美濃	光	210107	当法人における人工呼吸器装着者の病院在宅連携の取り組み
9	P3-59	4	福田	純子	210299	在宅ケアチームの看護師が救急外来に所属することの意義を考える
9	P3-60	5	石原	克美	210193	山間部への在宅診療ー他部門との連携を考えるー
9	P3-61	6	長谷川	潤	210087	名古屋市東区を中心とした多職種連携の勉強会(葵フォーラム)を開催して
9	P3-62	7	小堺	武士	210085	自分たちが考える自職種の役割と周囲から期待されている役割のズレ～ワークショップ「多職種を知ろう！自分の職種を知ろう！」の結果から～
10	P3-63	1	上田	加奈子	210286	訪問薬剤管理指導に関する薬業連携の取り組み～保険薬局との交流会を通して～
10	P3-64	2	大川	あさ子	210306	排尿自立指導料に基づく排泄ケア回診の実際と問題点
10	P3-65	3	澤田	真紀	210264	多職種チーム「地域連携あった会」の取り組み
10	P3-66	4	井上	真一郎	210020	在宅医療において精神疾患に対応するための多職種研修プログラムの有効性について
10	P3-67	5	古屋	俊樹	210022	「百聞は一見にしかず。病院MSWが即時に動けるためには」
10	P3-68	6	佐藤	靖治	210115	がん患者が在宅医療につながりにくい理由について、社会の状況と当院の状況を比較検証し、その中でMSWが果たす役割を考える。
10	P3-69	7	福岡	篤彦	210197	山間過疎地域における高齢者の居場所づくり～笑いヨガで地域活性化～

ポスターセッション4

4月30日(月・祝) 10:40～11:40

3F 展示会場(北辰)

グループ	発表ID	発表順	姓	名	演題登録ID	演題名
1	P4-01	1	中村	幸伸	210013	在宅医も嚥下評価をしよう！胃瘻交換用内視鏡を用いた嚥下内視鏡検査の実践報告
1	P4-02	2	石川	昌弘	210134	在宅医療における、嚥下機能、栄養状態と身体機能の連関
1	P4-03	3	田實	仁	210200	脳血管疾患・神経変性疾患を有する在宅摂食嚥下障害患者に訪問嚥下診療にて嚥下内視鏡を用いて摂食嚥下機能を評価し食支援を行った260症例の報告
1	P4-04	4	山根	由起子	210209	在宅における摂食嚥下評価に基づいた摂食嚥下ケアプランの指導
1	P4-05	5	衛藤	彩	210222	訪問栄養指導による摂食・嚥下機能低下患者指導の現状と課題
1	P4-06	6	石川	明奈	210287	数値での口腔機能の見える化によるリハビリテーション意欲の向上 ～言語聴覚士からの提案～
1	P4-07	7	安田	和代	210288	食の初期アセスメントチームとして3職種(管理栄養士、歯科衛生士、言語聴覚士)による関わりの意義と効果
2	P4-08	1	姜	琪鎬	210340	在宅医療でのKTBCの活用
2	P4-09	2	山田	淳美	210196	重症COPD・両股関節頭部骨折による嚥下嚥下を契機に、誤嚥性肺炎を繰り返した症例に対する再入院予防～KTBCを用いた多職種協働食支援～
2	P4-10	3	船山	高明	210229	誤嚥性肺炎を予防するための保清の口腔ケアの役割について
2	P4-11	4	寺田	友明	210277	訪問リハビリテーション対象者の栄養状態と特徴
2	P4-12	5	合掌	かおり	210297	歯科へのコンサルテーションの質を上げるための実践～歯科衛生士からの提案～
2	P4-13	6	廣瀬	明子	210214	急性期病院における訪問栄養食事指導の算定に向けての体制づくり

日本在宅医学会 第20回記念大会 一般演題 ポスター発表一覧

* 演題名にHTMLタグが含まれている場合がありますが、抄録集では正しく変換されます

* 事情により発表順が変更となる場合がございますので、必ずセッション開始前に会場に待機し、座長の指示に従い発表してください。

2	P4-14	7	西山	耕一郎	210033	看取り期に最後まで口から食べるを支える人材育成～横浜・神奈川～
3	P4-15	1	岡田	徹也	210125	在宅療養支援診療所の質的指標として、訪問診療患者緊急入院時間日診察率による評価の提案
3	P4-16	2	林	優子	210282	在宅看取りの質評価の試み：終末期の人生満足感に関する3ケースへのヒアリング調査から
3	P4-17	3	吉田	伸	210319	在宅病における患者希望を反映した在宅看取り率の測定-2016年度97名の在宅看取り症例より-
3	P4-18	4	加藤	由美	210099	地域連携の実態及び課題の把握-多職種ネットワーク構成員による地域連携評価の活用
3	P4-19	5	永谷	計	210006	在宅多職種における各種評価法の利用状況
3	P4-20	6	中村	達志	210041	身体活動量とLife SpaceAssessmentの相関性およびカットオフ値の検討～在宅脳卒中患者の機能維持・向上を目指して～
3	P4-21	7	野田	正治	210258	警察の死体取扱件数を用いた概算地域看取り率についての提案
4	P4-22	1	木村	政義	210002	在宅人工呼吸における加湿能力の検討
4	P4-23	2	荒井	康之	210060	在宅療養支援診療所Aにおける臨時対応(往診)の検討
4	P4-24	3	水間	美宏	210077	在宅医療におけるポケットエコーへの期待と課題
4	P4-25	4	浜本	英昌	210272	在宅医療に使用されるポンプ用キャリアバッグの工夫
4	P4-26	5	伊藤	照明	210275	在宅医療におけるポケット型エコーによる肺エコーの有用性
4	P4-27	6	原	史郎	210295	当クリニックの臨床工学技士が在宅における終末期医療に重要な役割を果たした人工呼吸器患者の一例
4	P4-28	7	阿部	博樹	210300	当院における在宅人工呼吸療法の停電対策
5	P4-29	1	長谷川	高志	210135	在宅患者に対する遠隔診療の多施設前向き臨床試験結果
5	P4-30	2	大槻	雄士	210333	在宅医学における遠隔医療サービスを備えた服薬支援ロボットの役割
5	P4-31	3	水落	紀世子	210158	遠隔モニタリングシステム機能を有する超音波機器を利用し、エコー画像を複数の医師で共有することにより診療に役立てる試み
5	P4-32	4	久保田	義悟	210189	当院の「身の丈に合った」在宅医療ICTシステム「情報セキュリティ」について ～「一進一退」の取り組みの軌跡～
5	P4-33	5	久保田	義悟	210191	ICT多職種連携の「前」にやるべきこと…（「身の丈に合った」在宅医療ICTシステムでの院内の連携整備が先決！）
5	P4-34	6	前田	浩幸	210104	現場を疲弊させない～クラウド型アプリ作成プラットフォームで構築した訪問診療支援業務システム～
5	P4-35	7	江籠平	紀子	210242	在宅医療制度を患者の利益に推進する取組み ～全国在宅医療テストと訪問看護活用のためのアプリ～
6	P4-36	1	辻	雄介	210086	訪問診療専門クリニックにおける広報活動～事務職が取り組む紹介へのきっかけづくり～
6	P4-37	2	菅野	幸	210252	当院におけるチームビルディング、「お誕生日プロジェクト」についての一考察
6	P4-38	3	海野	航平	210261	Appreciative Inquiryの手法を用いた院内研修・理念冊子が職員・組織に与える影響について
6	P4-39	4	中川	誠二	210001	ホームページを活用した在宅専門診療所の看護職員自力採用の試み(人材紹介に頼る採用から直接応募の自力採用へ)
6	P4-40	5	高野	修一	210053	在宅療養支援診療所における「在宅新患」の分析と課題
6	P4-41	6	沼井	拓郎	210315	地域医療の早期体験実習(early exposure)「地域医療塾」の実施報告
6	P4-42	7	次橋	幸男	210276	在宅医療における時間外緊急コール内容の分析:訪問看護師、在宅医師への連絡内容の比較
7	P4-43	1	堤	直也	210243	外来通院患者における、潜在的な訪問診療ニーズに対するアプローチ
7	P4-44	2	山口	潔	210103	強化型在宅療養支援診療所における外来診療の意義
7	P4-45	3	熊谷	琴美	210035	外来通院中の高齢者における握力低下に影響する因子の検討
7	P4-46	4	橋本	宏美	210120	在宅医療に取り組むクリニックの協働 ～何を学び、何が出来たのか～
7	P4-47	5	大橋	晃太	210100	血液疾患の在宅療養を支援する地域ネットワーク構築へ向けて -血液在宅ねっとの活動-
7	P4-48	6	上林	孝豊	210058	訪問診療を受けている患者が抱えている問題に関する検討
7	P4-49	7	飯森	俊介	210278	当院における軽快離脱症例の検討
8	P4-50	1	服部	直子	210117	他職種と共同することにより脊髄損傷患者の自立へとつながった一例～働きたいその思いを支援して～
8	P4-51	2	仁井山	由香	210139	初診時よりQOL低下をきたす全身多発骨転移を伴ったStageⅣの高齢者乳癌患者に対するいのちと在宅療養を支える連携
8	P4-52	3	福島	達夫	210311	在宅看取りをおこなった末期腎不全の2症例 -解決されるべき問題点と対策-
8	P4-53	4	守上	佳樹	210208	在宅医療導入後、24時間以内に死亡した患者2症例の比較検討
8	P4-54	5	伊藤	裕子	210314	在宅で移動用リフトを導入して、高齢者のQOLの維持と介護負担の軽減が図れた症例 ～テクノイドと連携して～
8	P4-55	6	中村	義徳	210323	医療・介護多職種連携にて治療に至った難治性下腿潰瘍の一例
9	P4-56	1	神農	雅秀	210054	一般の診療所にも可能な、在宅患者における尿道カテーテル種脱ガイドライン構築の試み～不必要な尿道カテーテルの長期留置を避けるために～
9	P4-57	2	磯島	寿人	210074	経胃瘻カテーテル内視鏡を導入し、バンパー型胃瘻カテーテルを在宅で交換できるようにした取り組みについて
9	P4-58	3	進藤	達哉	210220	在宅中心静脈栄養をうけている患者に生じたセレン欠乏性貧血の1例
9	P4-59	4	森田	千雅子	210034	在宅療養患者における低アルブミン血症と疾患の関連性について
9	P4-60	5	杉本	由佳	210320	在宅での脂肪乳剤の使用状況と問題点
9	P4-61	6	餅原	弘樹	210313	ALS患者に対して使用したペランパネルにより、攻撃性の副作用を認めた1例
9	P4-62	7	森本	智幸	210205	在宅看護・リハビリの見える化について
10	P4-63	1	山本	健	210137	在宅看取りと新月満月、気圧変化、時間帯についての研究
10	P4-64	2	羽金	和彦	210249	在宅医、かかりつけ医が患者さんと結ぶ医学的判断代理権委任契約
10	P4-65	3	土井	正樹	210301	その人らしい生き方を支える～在宅医療の現場から～
10	P4-66	4	遠矢	有紀子	210294	在宅医療における診療記録のディクテーション(口述記録)の有用性について
10	P4-67	5	齊藤	小百合	210064	他職種の連携により家族ケアを高めてつづける長期生存 V180I 遺伝性クロイツフェルト・ヤコブ病の一例
10	P4-68	6	岡田	豊	210047	訪問診療専門クリニックにおける在宅褥瘡患者に対する取り組み～有病率・発生率減少を目指して～
10	P4-69	7	森	紘子	210338	「在宅医療において緊急電話でやりとりができない患者」に対する対応の振り返り